

切除不能
尿路上皮癌

エンホルツマブ ベドチン+ペムブロリズマブ療法

根治切除不能な尿路上皮癌

D-30

< 21日間隔・キイトルーダ最大35コース(2年間), パドセブ上限なし >

治療日		第1日目	第2～7日目	第8日目	第9～21日目	第22日目
治療内容						
検査	採血	○		○		○
	胸部X線	○				○
診療	副作用の問診	○		○		○
	検査結果	○		○		○
治療中止基準	【パドセブ】 ①G3以上の皮膚障害 ②G2以上の角膜障害 ③血糖値250mg/dL以上 ④G2以上の末梢性ニューロパチー ⑤好中球<1000、Hb<8.0 ⑥血小板<7.5万 ⑦G2以上の間質性肺疾患 ⑧G3以上のその他の副作用 【キイトルーダ】 ①G2以上の肺臓炎 ②副腎クリーゼの疑い ③G3以上の皮膚障害・神経障害 ④AST、ALT>5×ULN ⑤T-Bil>1.5×ULN ⑥Cr>1.5×ベースライン ⑦G2以上の下痢 ⑧自己免疫疾患の発症疑い					
点滴	① 生食 100mL +デキサート 3.3mg 2A 点滴静注【30分】	↓		↓		↓
	② 生食50mL +パドセブ 1.25mg/kg (最大125mg) +注射用水20mL(溶解用) 点滴静注【30分】	↓		↓		↓
	③ 生食 50mL 点滴静注【15分】	↓		↓		↓
	④ 生理食塩50mL +キイトルーダ 200mg 点滴静注【30分】 フィルター付きルートで	↓				↓
	⑤ 生食 50mL 点滴静注【全開】	↓				↓

看護のPoint!!

Infusion reactionに注意

皮膚障害に注意 ※特に①サイクル目での発現が多いためよく観察する

高血糖に注意(臨床試験で死亡例あり) ※糖尿病の既往ある方は特に注意。初回での発現が多い

キイトルーダは免疫調節薬であるので、免疫関連の副作用が起こる

主な副作用は皮膚障害、甲状腺機能低下、下痢、間質性肺炎

下痢の時はステロイドを使用(止痢剤ではない。大腸炎のため)